

日本の都・東京 季節感あふれる列島、共生・継承の精神いかし次世代価値創生

## 第2部 超都市地域・東京 楽しく、クリエイティブに地域創生

～知識・情報等の活用による文化的魅力をもった知的価値の創造（その2）～

東京藝術大学美術学部建築科 講師 博士(工学) 河村 茂

### 3. 都市づくり

この先、先進諸国は工業社会を抜け出し、知識情報社会に入っていこう。今日、**人々の価値観は多様化・高度化**しており、マズローの欲求段階説に絡めて見れば、個人が地球社会を舞台に自我(独自性の発揮、認知)・自己実現(自己表現、満足)の欲求を追求する社会を志向するようになってきている。そうした動きの中、地球社会は国家の枠組みを超え、先進諸国において形成されたメガ地域が主導する形で、クリエイティブな動きもみられるようになってきており、文化(楽しく、穏やかで居心地の良い)・交流(活気、賑わい)を重視した、そんな経済社会環境の創出を志向する雰囲気が出てきている。そうした次世代の方向性を見つめ、都市・東京はどのように変化していったらよいのであろう・・・。

近未来の価値とは何か？昨今の世界における天災・人災の発生状況からすると、まずは安全安心(生命をつなぐ)の確保が課題となる。また、利便性(時や場所また人間の運動能力などの制約をこえる)の向上は引き続き対応していく課題となる。そうした基礎構造の上に楽しさ(夢中になれる、自己実現が図れる)とかアメニティの確保を上部構造として構築していくことが、今後は肝要となろう。楽しさやアメニティまた交流を求め、人・物・金・情報が集まる都市、供給される物品や事柄が文化的価値を増すよう、金融機能や情報技術などを活用し都市活動を仕組んでいくことが求められる。

人々の生活環境を規定する都市づくりの理論や方法論も、知識情報化の進展をふまえ工業社会の時代に尊ばれた、物づくりを中心とした産業・経済、効率性追求の理念が次第に陳腐化し、その魅力を失っていく。それでは「**文化的魅力・知的な価値**」が重視される、新たな社会における都市づくりの方向はいかに？その前に、まずは近代都市づくりに対する批判からみていこう。

#### (1)近代都市への批判と対応

近代都市は、碁盤の目のように整然と区画整理され、中心市街とりわけ都心部は大街区方式で再開発が進みオフィスタワーが林立、また周辺は近隣住区方式で学校を中心に住宅街区が形成されてきた。また、都市内の各地域、とりわけ都心部と周辺部との間は、ハイウェイや鉄道など高速交通網により結びつけられることで、中心市街は高層ビルがひしめくビジネスセンターに、また郊外の住宅地は低密度の専用住宅地として整備されてきた。

「地方創生」支援プロジェクト



これは工業社会の形成期に理想とされた将来像に沿った、インターナショナルスタイルでの画一的・均質的な産業都市づくりの結果でもある。しかし、このような考え方で整備された実際の都市に身を置いたジェイン・ジェイコブズ(当時、ルポライターとして活躍)は、このビルとハイウェイと自動車による近代都市を見て、まるで機械工場のように、公園はとられていても人の姿はほとんどなく、賑わいや生气に欠け、夜間には犯罪の温床となるなど、いったい「誰のための都市か」と批判した。

そして大都市を人間の都市として再生させるため、その生活行動を規範に「多様性」の原理を掲げ、職住近接で様々な居住形態のある、新旧建物の混じった用途複合型の密度高い小街区構成を推奨、人々の出会いやコミュニケーション機会の多い、まちづくりを展開すべきとした。

このジェイコブズの都市思想は、その後、北米ではニューアーバニズム(鉄道駅中心の公共交通優先のまちづくり)、欧州ではコンパクトシティ(環境・エネルギーや公共投資の効率のよい職住近接の都市づくり)、そして英国ではアーバンビレッジ(多種多様性のある、歩いて暮らせる、持続的なコミュニティ)として発展を遂げている。



テロ

近代都市ニューヨークと高速道路インターチェンジ

郊外に開発された住宅地

## (2) 都市づくりの方向

### ■現状改善型での都市づくりの方向

#### 戦略① 地域構造の集約化 公共交通優先でコンパクト化

少子・高齢化、人口減少社会を迎え、空き地・空き家が急速に増加している。今後はこれらの空きスペースを密集地区の改善と絡め、地域毎、地区単位に場所のもつ固有性をふまえメリハリをつけ、建築街区の密度を高め多様な形態をもった集約型構造のまち(生活利便性の向上と社会資本の整備・維持管理の効率性を発揮)へとシフトさせていく必要がある。

日本は明治この方、近代都市化にあたり、鉄道網の整備にとりわけ熱心に取り組んできた。そして東京を代表に日本の大都市の鉄道整備の水準は、世界に冠たるものがある。市民生活も鉄道駅を中心に展開され、既成市街では駅から伸びる近隣商店街を軸に、歩いて暮らせるまちが、また郊外では駅前の商業集積を核に、駅前広場から後背地に向けバス網が整備されている。

#### ・アーバンビレッジ 歩いて暮らせるヒューマンスケールのまち

都市の圧迫感・疎外感、またそれらがもたらすストレスから解放、さらに旧来の村落がもつマ

「地方創生」支援プロジェクト



イナスイメージをぬぐい、都会暮らしをより豊かにするため、水面や樹林が広がる村落的な佇まいを創出、人々が心安らぎ癒される季節の変化を感じられる環境、また穏やかな人間関係のあるまちで、感性を磨きクリエイティブに活躍できるようにしていく必要がある。

具体には、歩いて暮らせるコンパクトな生活圏（800m 範囲内、高密度、職住学遊近接での機能融合、緑のオープンスペース溢れる、歩行者・自転車・公共交通優先）に村落的佇まいの環境を整備し、村落が持つ落ち着きや包容力、暗黙の監視機能（人の目など）をもつコミュニティを創っていく。市街には超高層街区のまちもあれば住宅団地型のまちもある、しかし、地区単位にアーバンデザイン（風景との調和、人間尺度、地場の素材活用、伝統工芸の活用、細部へのこだわり、芸術との統合など）された「ビレッジ」が、都市の主要な暮らしの場としてコミュニティの単位（人口 4,000 人程度）に再構築され、地域の文脈をふまえ様々な形態で伝統的雰囲気醸し出すようにする。例えば、市街には空き地の活用も含め地域の森や緑の広場を創出、また空き家の活用も図り保育所やシェアハウス、高齢者地域センター等を順次、拡充、どこにいてもコミュニケーションのある安心して暮らせる都市生活の舞台を創生する。

かつて英国は、産業都市化に伴う弊害（公害、衛生問題）に対処するため、田園都市構想に基づき郊外に都市と農村の良さをマッチさせた新都市（ニュータウン）の建設を図った。その他の外国の都市も大都市郊外に、このニュータウン構想の考え方をふまえ、近隣住区構成による住宅地の整備を進めてきた。

しかし、昨今、本家英国では一歩進んで既成の市街地、都心部にも村落がもつ居心地の良さ（伝統的なコミュニティのまとまり、自然の安らぎ、穏やかさ）を創生しようと動いている。英国ではチャールズ皇太子が、「アーバンビレッジ(都市の中の村落)」の思想、理論を示し、自らデベロッパーとしてまちづくりを先導、その後ブレア政権は、その成果を取り入れ施策化している。



— 一代官山、都会的な魅力を持つ街並みに穏やかな佇まい —



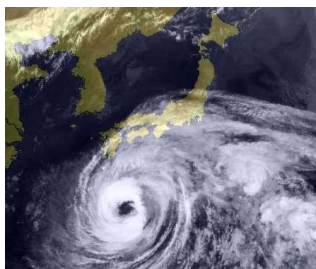
— 既成の市街地内に村落的雰囲気を醸す住宅街区 —

「地方創生」支援プロジェクト



## 戦略② 安全安心な暮らしの基盤整備 防災、治安、インフラの更新

近代化の進展に伴い、市街は密集化が進み火災の危険が大きくなったが、昨今はビル化・マンション化により建物の不燃化が進むだけでなく、木造住宅においても住宅設備等の安全装置化や消防力の強化が進み、市街地大火の危険は小さくなってきた。一方、モンスター台風や集中豪雨などで水害や地盤の崩壊、また大規模地震による建物倒壊の危険が増している。



モンスター台風



地震津波



大地震による建物の倒壊

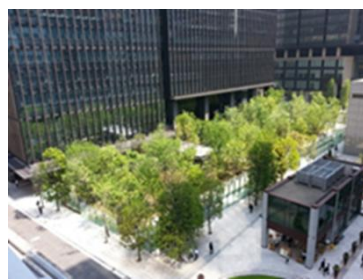
### ・資源・エネルギー、災害、環境問題への対応 安全安心

ハザードマップを公表、建物の耐震状況や公共施設の災害対応能力などを周知するとともに、緊急輸送道路沿道や避難広場の周辺を重点的に整備、また市街には耐震マンション、不燃住宅、免震ビルなどの整備を推進する。

そしていつでもどこでも手に入る持続可能な、太陽エネルギーや水素エネルギー等の活用を推進する。また、緑の都市構想を描き神社、寺院、住宅団地、公共施設などを活用し、小中学校区に一つ、災害に強く環境に優しい「地域の森づくり」を進める。中心市街も大規模な公園緑地を核とし、多目的活動拠点の整備を図り、その周囲には立体感ある緑化を推進する。



下町・芝の森



都心・大手町の森



山の手・市谷の森

※メソポタミアなど人類文明発祥の地は、森林を破壊したことから砂漠化が進み文明や都市までも失うことになった。

### ■次世代の課題、魅力・価値を創造する交流都市

産業革命により電灯が発明され、需要の高まりに伴い人間の活動は夜間にまで及ぶようになったが、情報通信革命では地球が一つの社会を形成し、その活動も24時間化してきている。また、知識情報社会では、知識や経験により培われた感性を反映し、人々を楽しくさせる多種多様な魅力ある、商品・サービスが創り出されるようになることから、ピストン運動のように繰り返す機

「地方創生」支援プロジェクト



械的動きや、過去の経験に基づくマニュアル的な対応は、その価値を弱めていく。

### ○クリエイティブな都市と経済社会

知識・情報社会に求められる「クリエイティブな都市」としては、都市やまちが地域特性に留意し価値観を共有したり、企業や職場がコンセプトやテーマを共有し、そのめざす目標・方向に沿って、知的労働者、クリエイティブな人々が、柔軟な思考をもって文化的魅力や知的価値の創造に取り組み、経済社会発展の推進役となっていく、そんな創造力に富んだ都市が考えられる。

クリエイティブな仕事にはマニュアルがない、クリエイターの活動はコミュニケーションなどを契機に刺激をうけ火が付き、興味や欲求に沿って各分野の専門家、知識人などと交流、コラボにより活動のエネルギーが増し創造的展開を遂げていく。

クリエイターの暮らす都市やまちにおいては、地域の安全性や環境のアメニティ性、また娯楽や文化のジョイフル性が高いことが求められる。それは、クリエイターがエネルギーを充電し活動を持続させていく上で、とても重要な要素であるから。また、まちは開放的で寛容な雰囲気を醸し、都市は社交的で活気があることが、自我の発揮や自己実現をめざすクリエイターにとって大変重要なこととなる。

クリエイターは自律性が高く、専門性を身に着け得意分野を有していることから、自我の発揮が容易であったり自己実現のチャンスの高い場所に集う。クリエイターは、社会システムが整い、治安がよく安全なところを求めており、その**才能の集積と異質なものの相互の交流**による**相乗効果**で、**イノベーション(既存の価値を破壊し、新しい価値を創造する)**を引き起こす。

地方都市は、街を歩いている人影はまばらであるが、都会には人があふれている。人々が感性を高め、その能力を発揮するには、多くの人々と出会い交流し様々な事象を経験し磨かれていくことが肝要で、そんな場と機会を都市は多く創出していくことが求められる。知識情報社会の都市モデルは産業都市モデルとしての、例えば自動車による移動を主体とした地方都市のように、人間的ふれあいの少ない都市ではなく、**徒歩と公共交通によるスクランブル的な交わり**の多い、コンパクトな地域構造をもった都市が求められる。

都会は狭隘で混雑し物価も高いが、様々な人々との出会いの場や機会、そして職業選択の自由度が高く、遊びの場なども多数存在、その開放性、多様性が魅力となっている。都市の高密度な人口集積と複合的な機能構成が、多様性や柔軟性など社会の懐の深さを生み、都会の開放性と市民の寛容性が才能ある人々を集め、相互の交流により彼らの好奇心に火をつけ、革新的な取り組みが進むことで専門性や芸術性が発揮され、創造的な活動が展開されていく。

### 戦略③ ネットワークで「創造交流」都市づくり 平和、利便、交流環境、文化創造、活性化

東京は全国に機能展開するスーパーメガ地域（全国があたかも都市東京として一体的に機能する）の中核として、知識情報化の進展やリニア新幹線網の整備などをにらみ、ビジネス面においてもグローバルシティとして、多くの人々の暮らしの満足度を高めるとともに、日本らしさの発揮に留意

「地方創生」支援プロジェクト



し都市の文化的魅力・知的価値の向上を図っていく。具体には、金融・情報機能の集積を進め、それらを活用し目的としての人々を楽しくさせる**次世代価値「文化（情報、知識、価値、魅力等）」**の生産・流通・消費に向け、**物品や事柄への付加価値づけ**に有利なよう、都市基盤システムと人間の活動環境を整えていく。

具体には、交通輸送や情報通信の全国的・国際的ネットワークの充実強化はもとより、教育やビジネスまた観光や交流などの分野で、ビジターを重視した都市としていく。そのため教育研究の機能や施設また機関の充実と、**多様なふれあい交流(社交)の場**の創出に力を入れ、「**ビジターシティ**」に相応しく空港・港湾、高速道路・鉄道等の施設のほか、ホテル・ホールなど観光・娯楽・宿泊や医療・保健関連の施設を整備するとともに、異文化に対する理解の促進や英語等の言語習得の推進、また街中での案内表示の充実など交流の舞台を整え、**都市の社交性を高めていく**。また、クリエイティブな人々は、居心地の良い所を求め、互いに近くに住み密度高い交流を望むことから、都心部を中心にその活動や娯楽の場、生活環境などを魅力的にしていける必要がある。

### (3) 実現の方策 知的価値を創造し楽しい都市まちへ

#### 戦術① 都市経営の合理化 都市全体の計画・調整と地域毎の施策執行上の体制分離

知識情報社会下の創造交流型の都市づくりにあたっては、全国を広く東京の都市域と捉えビジネスマン、学生、研究者、**観光客**などが日常的にリニアや飛行機などを介し、全国を行き来するイメージ（リニアが実現すれば名古屋、大阪は東京の通勤圏）を持つ必要がある。即ち、東京の中心部は日本全体そして世界に向け活動展開する、東京スーパーメガ地域の中核機能ゾーンとして捉え、全国そして海外を交通輸送と情報通信のネットで一体化し、社交性の高い都市・東京として機能するよう計画する。そのため将来的に東京都は職員 1000～2000 人程度の**スリムな経営組織**とし、計画策定と財政調整そして施策相互の統制権を有する組織へと脱皮、公営企業体の経営などは独立運営体へと移行、また、行政の実施機能は特別区や市町村、場合によっては民間等に全面的に移行させる。



ロンドン・シティホール(G L A職員 600 人程)



羽田空港国際機能拡充

#### 戦術② 民間活力の活用と地方自治の発揮 地域性や固有性ふまえた多様な価値の実現

スーパーメガ地域・東京の全国的な機能構成と核都市等の配置にあたっては、東京都が全体像を描き実現に向け計画統制するが、地域毎の事業の計画や実施また規制誘導など、自治体の運営

「地方創生」支援プロジェクト



は地域に即し多様なニーズを反映させるべく、地域の中核的な都市や特別区等が担う。

当然にして都市活動の主体は民間が担い、多種多様な社会ニーズを受けとめ、その実現へと動く。そして多様な社会価値を実現するため、市民の自由な発想、行動を可能とするべく規制は最小限とし、規制の運用にあたっては、地域性をふまえ幅広に対応するべく、地方自治（とりわけ「まちづくり協議会、エリアマネジメント組織」の活用など住民自治を重視）の仕組みを強化拡充する、そうして1億人を超える住民が、それぞれに情報を活用し、自らの感性を磨き知恵と工夫で、様々な価値を創出しビジネス化を図っていく、そんな都市をめざす。

各自治体は、一体的な都市づくりの上で必要とされる、計画策定・統制機能、財政調整機能以外は自治権をもち、当該区域内は**独自に経営**を行う。



### 戦術③ まちづくりのモチーフの転換 満足指標を確立、誘導基準をもつて、協議調整へ

・都市整備にあたっては、その不可逆性に留意し、慎重に物事を進める必要がある（粘土は形を元に戻せるが、これに火を入れ陶器を焼成すると元には戻らなくなる、粘土とは「計画・設計のイメージ段階」をいい、焼成とは「制度を確立し建設する段階」をいう）。

・「まちづくり」は、連歌のように一句謡い出したなら、その様子を見て、また一句つぐというように、広く街の動きにあわせ必要な修復をかける形で、あるところは再開発、あるところは保全、またあるところは復元というように、様々な方法で都市の魅力や価値を順次、増すよう、**漸進的な発展**の方向を描いて着実に歩みを進める。

・また、都市整備にあたっては質的水準を上げるべく、「安全・効率指標」に即した「最低基準」から脱し、地域毎にワークショップを開催するなどして将来像を具体化、その結果を反映させた形で「満足指標」を掲げ「誘導基準」を設定、目標とするまちづくりへと政策誘導する。

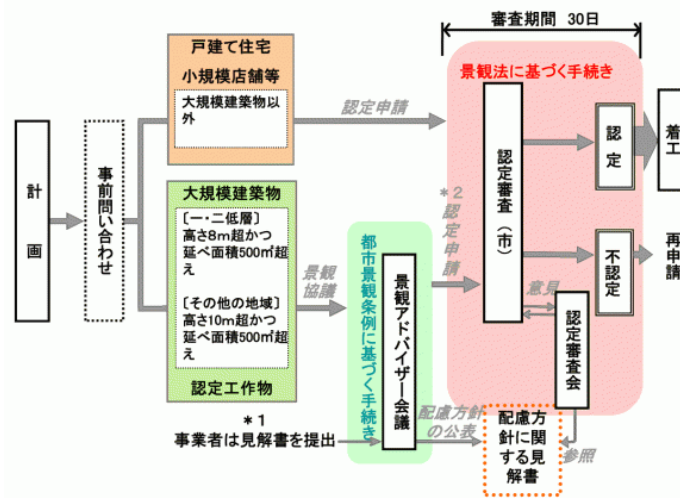
・さらに、生活環境の質を高めるため、定量的な基準だけでなく、**定性的な基準**も用い、**協議調整方式**を活用し事前に関係者とよく話し合い、目標の実現に向け個々具体的に誘導する。

「地方創生」支援プロジェクト





ワークショップの風景



芦屋市景観地区に係る定性基準等の事前協議と認定の手続き

## ■コラム

### 戦略・戦術を受け当面講ずべき具体策の提案：「暮らしの場のアーバンビレッジへの再編」

東京は、都市構造上の位置づけや、土地が有する場所性など地域の特性に留意し、まちづくりの視点から文化的魅力や知的価値創造の場にあった地域居住のイメージを確立、地区毎に規制誘導策の運用を弾力化し(地域に即した運用)、税財政金融上の優遇策とも連携し、目標の実現に向け様々な方法でメリハリをつけ、きめ細かく誘導することにより、高度化・多様化する社会ニーズに対応、質の高い様々な住宅の供給にあわせ、住宅地の居住環境を順次改善していく。

具体的には、まず、**地域居住像**として、**都心部**(インナーシティ)は、**クリエイティブな交流都市**に相応しく尾根部の**緑地**そして**水際を活かし、職住近接型**でビジネス・アクティブな人々が、歩いて暮らせる**24時間対応のまち**をめざし、賃貸方式の**タワーマンション+中高層住宅**の形態を中心に、贅沢感あるラグジュアリー住宅の供給を志向する。

また、**その他の既成市街地**(ミッドタウン)は、生活利便性を活かし様々な人々が、リーズナブルにそして安心して穏やかに暮らせるまちとして、地域の**防災・環境面の改善**に向け、**老朽戸建の空き家や木賃アパートの解消、樹木や草花の植栽空間を拡大**、また世代間の転居をイメージし、**リノベーション住宅**などの整備と連携した**共同住宅**の建設をめざし**特例的な誘導・助成策**を講じ、分譲又は賃貸で心安らかに暮らせる、お手頃な**アフォーダブル住宅**の供給を志向する。

さらに、**都市外縁部**(アウターシティ)は、**田園や林間の良さをいかし老朽公的住宅敷地の定期借地権をライトダウン**し、民活による建替えを促進、永住型マイホームとともに、インキュベートやホビー需要に対応した施設(芸術製作アトリエ、音楽演奏練習場など含む。)の供給を誘導する。

こうして都会的なセンスと緑地や水辺また田園や林間などのもつ穏やかな雰囲気が融合、階層や世代、世帯タイプなどがミックスし豊かなコミュニケーションがあり、心豊かに暮らせる**アーバンビレッジ**の形成を志向する。

#### ●まちづくりと連動した住宅施策の展開

施策効果を高めるため、地域に立脚した住宅施策を展開することとし、まずは**地区整備の計画**を策定、これに即して**建築規制を合理化**(容積の移転・割増(運用の自由度を拡大)、また高さや壁面線、構造制限などを地域特性に適合させる)、またこれにあわせ**事業資金の低利融資や補助金の交付、税の減免**などの**経済的支援措置**を加え誘導する。

「地方創生」支援プロジェクト





即ち、インナーシティは容積制度活用の効果が高いので、規制の緩和・合理化など誘導策を中心に展開する。具体には、**高度利用型地区計画**(空地は小さくとも、**耐震性・居住性の向上を評価し容積割増**)を活用、**連携協調型総合設計**(**公開空地(管理組合による管理)の配置を飛び地で認める**)を創設し、老朽マンションの更新を誘導する。また、**事務所のコンバージョン・賃貸住宅化**を誘導すべく、社会的弱者対応の住戸には10年間、税を減免、その後、分譲可能とする。

この容積活用の効果はミッドタウンに入ると弱まるが、とって住宅密集地で区画整理事業を施行することも難しい。そこで民活での空間構成の再編に向け、まずは地区毎に整備主体を明確化し、老朽空き家対策、共同住宅の中高層化、緑地の拡大など総合的に住宅まちづくりを総合的に包括的に展開するため、「**地区専任型の総合住宅事業者制度**」を創設、密集地区の単位に専任のデベロッパー(入札により10~20社ほど選定)を張り付け、ユーカリが丘の住み替えサイクル施策のようにして、**10年間継続**して地域内の**住宅まちづくり**事業(複数の敷地連携型での共同住宅等の整備、高齢者の住居促進、**老朽住宅の買取(リノベーションして仕立て直しヤングファミリーに供給)**、除却した住宅等跡地の公開空地化)を実施する。このとき容積制度の活用に併せ経済的支援措置を講じるなどして、民間を介し公共事業を行う。

具体には、**住宅密集地**(環状6~7号線にかけての地域)に限り、**地区計画**(状況に応じ**容積適正配分型**(容積移転)を活用)に即し、**飛び地タイプの一団地認定**(一団地内は地区整備計画を策定)制度や**連携協調型総合設計**を活用し、老朽戸建や木賃アパートの除却(公開空地化)と大規模敷地へのマンション建設(小敷地の容積を大敷地に移転、さらに総合設計で容積割増)など、**複数の敷地整備が連携・協調する形**で進むよう誘導する。この場合、公開空地はマンション管理組合との管理運営協定(5年単位更新)に基づき税を減免、また共同施設整備に対し補助金を交付する。

**□住宅密集地における一団地認定、総合設計の弾力的運用のイメージ**

前面 6m 道路 (街区内の単線表示は幅員 2.7m)

	<p>公開空地 (歩道状)</p> <p>A 敷地</p> <p>B 敷地</p> <p>公開空地 (歩道状)</p>
前面 6m 道路 (街区内の単線表示は幅員 2.7m)	

注釈 A敷地の計画: 総合設計(a, b, c 敷地の公開空地化とA敷地への容積移転そして容積割増)  
 B敷地の計画: 一団地認定(d, e 敷地の公開空地化とB敷地への容積移転)

「地方創生」支援プロジェクト



なお、住宅密集地域の重点整備地区内においては、**防災街区整備促進事業**(権利譲渡に対し譲渡所得税の減免、居住転出者に対し移転住戸の斡旋や移転費用を支援、そして**高齢者(75才以上)**には事業者との**終身従前家賃維持協定締結**へと誘導)を活用、**飛び地での個別利用区**(公開空地化)の設定を可能とする。また、木賃アパートやマンション等の老朽建替(容積移転も含む)に対し事業資金の低利融資、共同住宅化に補助金を交付、老朽家屋からの転居する**低所得者用賃貸住宅**の整備に対し、**10年間税を減免**する(その後、分譲可)。この住宅密集地の重点整備地区内のアパートやマンション更新は、公共性が高い事業として位置づけ、UR等による住戸の**強制転居・買収制度**を創設する。

また、密集住宅地における、もう一つの整備タイプとして、低層戸建住宅が隣地境界線に接し連担する形での街並み形成を誘導するべく、建築基準法上の特例措置を設ける。具体には、**街並み誘導型地区計画**に基づき3階建て程度の耐火建築物が隣地境界線に接し**外壁を建築**できるよう(当該外壁には開口部を設けず、一定の遮音性能を有する)、構造面からの建築規制の合理化を図る。この場合、道路側及び背割からの**外壁後退**を義務化し、緑化を推進する。

さらに、これら施策に併せ混雑税の導入を検討する。即ち、都心部に入り込む自動車に賦課金を課し、交通需要の管理と環境政策とを連動させ、交通環境改善のための費用や居住環境整備のための財源として確保する。

#### ロミッドタウンにおける建築特例(外壁を隣接させるタイプの建築)による街並み形成のモデル



ロンドンの住宅地の事例

## 第2部 参考資料

アルビン・トフラー：第三の波，日本放送出版協会，1980

ダニエル・ベル：知識社会の衝撃，(株)TBSブリタニカ，1995

河村茂：日本の首都 江戸・東京 都市づくり物語，都政出版社，2001

青山やすし：東京都市論，(株)かんき出版，2003

ダニエル・ピンク、大前研一：ハイ・コンセプト・新しきことを考え出す人の時代，三笠書房，2006

梶山寿子：トップ・プロデューサーの仕事術 日経ビジネス人文庫，日本経済新聞出版社，2008

リチャード・フロリダ：クリエイティブ都市論，ダイヤモンド社，2009

ウィリアム・バーンスタイン：「豊かさ」の誕生 成長と発展の文化史 日経ビジネス人文庫，日本経済新聞出版社，2015

## 第2部 掲載写真等

リニア新幹線 <http://www.huffingtonpost.jp/>

日本 <https://ord.yahoo.co.jp/>

スマートフォン <http://kakaku.com/>

世界のメガ地域(光量集中地域) <https://www.bing.com/>

大陸から望む日本のメガ地域 <http://agora.ex.nii.ac.jp/>

「地方創生」支援プロジェクト



地球 <http://images.google.co.jp/>  
狩猟採取そして農耕へ <http://img03.ti-da.net/>  
農耕 <https://upload.wikimedia.org/wikipedia/>  
近代的な工場 <http://pds.exblog.jp/>  
規格大量生産 <http://kuwarinbouya.versus.jp/>  
超高層ビルと高速道路 <http://blog.osakanight.com/>  
マズローの欲求段階説 <http://www.brake-kaijo.com/>  
代替できる作業はロボット化 <https://www.bing.com/>  
余暇に自然と交わり楽しむ <https://ord.yahoo.co.jp/>  
家庭の美味しいレシピのビジネス化 <https://www.bing.com/>  
個人アイデアを住まいの形に <http://plus-a-house.jp/>  
アイドルを育てる選抜総選挙 <http://www.hkt48.jp/>  
感性あふれるアニメーション <https://www.bing.com/>  
思い思いに楽しめる体験型ゲーム <https://wayohoo.net/>  
春 <https://ord.yahoo.co.jp/> 夏 <http://blog.goo.ne.jp/>  
秋 <http://ecx.images-amazon.com/>  
冬 <http://guesthouse-takayama.blogspot.jp/>  
日本人の人生観を表現した宮島 <https://ord.yahoo.co.jp/>  
型を確立し伝統をつなぐ伊勢神宮 <http://www.kagojinjacho.or.jp/>  
テロ <https://matome.naver.jp/>  
近代都市ニューヨークと高速道路インターチェンジ <http://image.search.yahoo.co.jp/>  
郊外に開発された住宅地 <http://www.tostem-fc.jp/>  
代官山、都会的な魅力を持つ街並みに穏やかな佇まい <http://d-hillside terrace.com/>  
既成の市街地内に村落的雰囲気を持つ住宅街区 <https://www.bing.com/>  
モンスター台風 <http://blogs.yahoo.co.jp/>  
地震津波 <http://blog.goo.ne.jp/>  
大地震による建物の倒壊 <http://savior-web.sharepoint.com/>  
芝の森 <http://www.nikken.co.jp/>  
市谷の森 <http://www.kumesekkei.co.jp/>  
ロンドン・シティホール(G L A職員 600 人程) <http://1.bp.blogspot.com/>  
エリアマネジメントと活動 <http://tochi.mlit.go.jp/>  
協働での屋根の葺替え <http://blog.livedoor.jp/>  
ワークショップ/風景 <http://www.city.yamaguchi.lg.jp/>  
芦屋市景観地区に係る定性基準等の事前協議と認定の手続き <http://www.city.ashiya.lg.jp/>  
暮らしの場のアーバンビレッジへの再編事例 <https://www.proud-web.jp/>

「地方創生」支援プロジェクト

